



仏教保育

12
Dec.

伝えよう いのち 生命の尊さ ほとけ の心

第34回全国仏教保育福島大会

大会テーマ 「合掌の姿に花は咲く」

～被災地“ふくしま”で学ぶ生命尊重の保育～

大会基調

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災から5年、被災地では未だに被害の影響が大きく残っています。特に福島県では東京電力福島第一原発事故により、故郷を追われた10万人以上の人たちが避難生活を余儀なくされています。更には放射能に汚染された環境の回復、風評被害の阻止など、解決しなければならぬ課題が山積し、復興への道のりは長く続きます。



会場：ホテルハマツ

その後も全国各地で自然災害が多発し、いのちの尊さや防災への関心が高まっている今、第34回仏教保育大会をここ福島県で開催致します。

東日本大震災の経験から、世界中で起きている自然災害、大気汚染、地球温暖化等、切実な環境問題に改めて気付かされました。快適さや便利さを追求する社会から脱却し、未来を育む子どもたちが笑顔で生きていける社会、いのちを大切に社会を築いていくことの重要さと、生命尊重の保育の必要性を改めて痛感致しました。

現代に欠如しているとされる人間本来の生き方である「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えも既に仏教保育の中に凝縮されていて、長い間各園で実践されてまいりました。

第34回全国仏教保育福島大会では被災地を訪ねて問題点を探りながら、改めて仏教保育の在り方を学び、実践に生かそうではありませんか。

そして、私たちの合わせた掌の中に、ほとけの花を咲かせましょう。



公益社団法人日本仏教保育協会
 本大会は毎回全国から大勢の
 会（緑谷一雄理事長）が隔年ご
 仏教保育者が集い保育の質向上
 とに開催する「第34回全国仏教
 を目指す研鑽の貴重な場となっ
 ています。また、志を同じくす
 保育福島大会」（大会実行委員
 長・吉岡棟憲）福島ルンビニー
 る人との交流を深める機会とし
 ても有意義な大会です。大会
 幼稚園）は、半年後に迫りまし
 テーマ、日程等は記載のとおり
 た。

日時 平成28年7月30日(土)・31日(日)
会場 ホテルハマツ (福島県郡山市)
主催 公益社団法人日本仏教保育協会
実施 第34回全国仏教保育福島大会
実行委員会

講演

《講師》

大井千加子氏 (特別養護老人ホーム

「なごみの郷」元職員)

《演題》

「被災地の復興状況と課題」

福島原子力発電所から30km圏内の真実

〜私は何を守れたのか〜

シンポジウム

テーマ 「現代に生きる仏教」

《シンポジスト》

星野英紀氏 (宗教学者・大正大学名誉教授)

千葉公慈氏 (駒沢女子大学教授)

戸田了達氏 (妙福寺保育園園長)

《コーディネーター》

高木正尊氏 (成田保育園園長)

です。開催地福島では今、大会
 実行委員長を中心にスタッフの
 先生方が一丸となって準備を進
 めています。
 講演をはじめ、シンポジウム
 にご登壇頂く先生方も決定しま
 した。
 ここで、講師の活動・お人柄
 などご紹介しましょう。

■講演

講師を務められる大井千加
 子氏は、東日本大震災発生当
 時は南相馬市にある介護老人保
 健施設の入所棟介護長を務めて
 いました。
 大津波警報発令を聞いた大井
 先生は施設に利用者40〜50人が
 残っていることを確認すると職
 員に救助指令を出し陣頭指揮に
 当たると共に、目前に迫る激流
 のような大津波にも自らの危険
 を顧みず、うめく利用者を助け
 出すなどの活動を続けました。
 雪が舞い、風が冷たさを増す中
 での救助だったと言います。そ
 の後、災害の怖さ、命の尊さを
 説いて全国を講演しておられま
 す。体験した人にしか語れない
 リアルで迫力あるお話は、涙な
 くして聞けないと思います。

■シンポジスト

●星野英紀氏は、日本の宗教

学者として遍く知られていま
 す。宗教学・宗教学者
 としての功績は大きく、「四国
 遍路の宗教学的研究、その構造
 と近現代の展開」の論文は高く
 評価されています。元大正大学
 学長、日本宗教学会会長、国際
 宗教研究所所長等を歴任し、原
 発事故被災地寺院の調査研究を
 されている星野氏のお話は聴き
 応えのある内容でしょう。

●千葉公慈氏は、駒沢女子
 大学でも明朗闊達な講義で人
 気があるようですが、千葉氏
 にはもう一つの顔があります。
 2015年3月からテレビ放送
 され、4月から「ゴールデンア
 ワータイムになった「ぶつちや
 け寺」(テレビ朝日系)にレギュ
 ラー出演され、得意即妙な会話
 で人気を博しています。ご専門
 は日本文化学で、フジテレビな
 どゲスト出演も多く、先生の屈
 託のない笑顔で語る話は聴き逃
 せないようです。

●戸田了達氏は、日蓮宗西中
 山妙福寺のご住職で、保育園(妙
 福寺保育園)の園長先生でもあ
 ります。「ありがとうは有るこ
 とが難しい」という意味で、人と
 して生きている感謝が込められ
 ています。生まれ生きているこ
 と自体が特別なことです」が持
 論で、ご住職としても説いてお

られます。また、「人に迷惑を
 かけない」ということについて
 は、「人に迷惑をかけながらし
 か生きられない。生かされてい
 る自分に気付こう」と常に語り
 かけます。ご自分の保育園でも、
 子どもたちのお父さん・お兄さ
 んのように慕われています。

●コーディネーター役を務めら
 れる高木正尊氏は、成田市で
 成田保育園の園長をされていま
 す。平成16年1月から、県内曹
 洞宗の若手僧侶を中心に「若手
 僧侶ら電話相談」を開設し、こ
 れまで多くの相談に応じ、悩み
 を説いてこられました。開設当
 初のキャッチフレーズは「青少
 年よ生命を大切に、若手僧侶ら
 電話相談。その名も「てるてる
 ぼうず」。少年の自殺、犯罪の
 凶悪化に歯止めをかけようとい
 うのが開設の動機だそうです。
 布教は一切せず、聞き役に徹す
 るのが基本とか。「悩みを声に
 して人に話せば、安心できるこ
 ともある」が、合言葉だそうです。

高木氏の絶妙なバトンタッチ
 から、どのような話が引き出さ
 れるのか。楽しみなシンポジウ
 ムになりそうです。
 皆さん！
 来夏は福島で

お会いしましょう!!



分科会

大枠が決定しました。内容については、担当部署の諸先生はじめ講師の先生方と協議を重ねながら、より充実を図るため精査に当たっています。

第1分科会 (仏教保育)

テーマ **生命尊重の保育を学ぶ**
内容 何気なく使っている「生命尊重」という言葉、日々の保育における「いのち」について考える。
講師 安藤和彦 (京都文教短期大学教授)

第2分科会 (仏教行事)

テーマ **日常の保育の中の 仏教の教えとは**
内容 仏教保育の中の教えを知って、普段の保育に仏教的感性を生かそう。
講師 戸田了達 (妙福寺保育園園長・東京) 富岡量秀 (大谷大学短期大学部准教授)

第3分科会 (新システム)

テーマ **新制度で仏教保育を生かすには**
内容 いよいよスタートした子ども子育ての新制度。今後の仏教保育にこのシステムをいかに生かすかを考える。
講師 若盛正城 (認定こども園こども園長)

第4分科会 (人間関係カウンセリング)

テーマ **「生きる力」「物語る力」を育てる**
内容 生きづらさが増し、対立点の表面化を避ける・無関心を装う傾向が強まっている。今こそ、物語る力・自己肯定感・レジリエンス(逆境から立ち上がる力)・主体的に生きる力を育みたい。
講師 吉田博子 (京都華頂大学教授)

第5分科会 (食育)

テーマ **子どもの食から学ぶ 「いのち」を生かす保育**
内容 食事から学ぶ「いのち」は仏教保育の原点。幼児にわかりやすく指導するための保育のあり方を学ぶ。
講師 佐藤達全 (育英短期大学教授)

第6分科会 (特別支援)

テーマ **障がい児に対する指導と支援**
内容 保育現場における、知的障がい児、及び発達障がい児への指導と支援について学ぶ。
講師 阿部芳久 (東北福祉大学教授)

第7分科会 (音楽)

テーマ **保育に生かそう仏教賛歌**
内容 仏教賛歌に込められた思いや願いを知り、日常の保育に生かすことを学ぶ。
講師 伊藤 繁 (武蔵野大学教授)

第8分科会 (造形)

テーマ **造形の楽しさと 知っておくべきこと**
内容 子どもは遊びの天才。同時にもの作りの発明王。造形の楽しさを教えるための方法とは。
講師 鮫島良一 (鶴見大学短期大学部講師)

第9分科会 (2歳児保育)

テーマ **2歳児保育の意味と実際**
内容 満3歳児入園では遅すぎる。今や2歳児確保に奔走。2歳児保育のあり方を考える。
講師 守 巧 (東京家政大学講師)

第10分科会 (防災と危機管理)

テーマ **東日本大震災で学んだ 危機管理と復興**
内容 大震災で起きた園児死亡事故の賠償命令の実例から防災の重要性と危機管理を学ぶ。
講師 小田隆史 (宮城教育大学特任准教授)

第11分科会 (フィールドワーク)

テーマ **原発事故被災地フィールド ワークバスツアー**
内容 原発事故から間もなく5年。未だに帰還できない地域を視察し、生命の尊厳について学ぶ。
講師 松本静男 (双葉郡葛尾村議会議員) 長谷川健一 (飯館村酪農家) 菅野清一 (川俣町議会議員)

平成 27 年度 「菩提樹学園・現地からの報告」

去る 11 月 9 日、公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は当協会本部事務局において、公益財団法人国際仏教興隆協会の巖谷正勝教育部長、同多田証子教育副部長のお二人から現地の運営費・人事問題などの詳細報告を基に「インド菩提樹学園運営委員会」を開催したことは既報（11/1 号・No 619）のとおりです。

本号では、菩提樹学園で学ぶ子どもたちの状況、クラスごとの活動等についてご報告（一部）します。

■ 2015 年 8 月現在の園児数・体重測定等について

●園児数は昨年 9 月に比べ、ベラ組とジューヒー組が 1 名減少し、210 名となっております。

●平均体重は 1 年前（2014 年 9 月）に比べて横ばい、やや減少のクラスもありますが、子どもたちはとても元気で遊びや勉強を楽しんでいるそうです。

【*「園児数」と「体重測定」の表は下記参照】

■ 「インド独立記念日」と「ラグシャバンダン」の集いに参加

●毎年 8 月 15 日はインドの「独立記念日」です。暑い日でしたが、子どもたちは式典に参加できるのが嬉しくて元気に登園し



てきました。式典が終わると子どもたちにお菓子が配られ、ロータリークラブから、ノートや鉛筆、消しゴムに鉛筆削りがプレゼントされました。子どもたちは、贈り物を抱えて笑顔で帰りました。卒園児たちも参加し、彼らにも「ジレビ」というお菓子が配られました。（写真は右下）

●「ラクシャバンダン」の集いは 8 月 28 日に行われ、男女合わせて 210 名が参加しました。ラクシャバンダンとは、男の子の兄弟に対して女の子の姉妹が健康や長生きを願う、男の子の兄弟は姉妹に対して安心して過ごせるように守っていくことを



約束する、という大切な行事だそうです。子どもたちは、そんなお話など聞いたあと、「ティカ」をして、女の子が男の子の腕に紐を結ぶと、男の子は女の子に真珠のネックレスをかけてあげました。みんなの笑顔がとても幸せそうでした。

この他、健康診断、お誕生会、保護者会など、いろいろな行事が行われています。毎月の「出席優良児へのご褒美」をも

園児数（2015 年 8 月）

クラス	数	担任	
カマル組	36 名	スマン先生	トタ組、計算の授業 A：ニーリマ先生
パンカジ組	36 名	ジャンティ先生	
クラブ組	35 名	カンチャン先生	養護、備品管理、フリー教諭： プリティー先生・グリヤ先生
チャンパー組	35 名	バビタ先生	
ベラ組	34 名	シュウエタ先生	英語、計算の授業 B：シュブ・クマール
ジューヒー組	34 名	ルパ先生	
合計	210 名		歌の教室：ビジャイ・クマール

つ。出席率はとても良好です。2015 年 8 月 31 日は下表の通りです。【*「出席優良児へのご褒美」の表は下記参照】

体重測定

実施	クラス	実施数	平均
2015 年 7 月 3 日	カマル組	36 名	13.6kg
2015 年 7 月 3 日	パンカジ組	36 名	13.5kg
2015 年 7 月 6 日	クラブ組	35 名	14.9kg
2015 年 7 月 6 日	チャンパー組	35 名	15.4kg
2015 年 7 月 16 日	ベラ組	34 名	17.1kg
2015 年 7 月 16 日	ジューヒー組	34 名	16.5kg

出席優良児へのご褒美（2015 年 8 月 31 日）

クラス	欠席の少なかった子ども	1 日も休まなかった子ども
カマル組	3 名	28 名
パンカジ組	2 名	30 名
クラブ組	3 名	33 名
チャンパー組	3 名	31 名
ベラ組	3 名	30 名
ジューヒー組	3 名	32 名
合計	17 名	184 名



「日本仏教教育学会・第24回学術大会」

平成27年11月13日〜14日／松江アーバンホテル・中村元記念館

11月13〜14の両日、松江アーバンホテル（理事会・編集委員会並びに中村元記念館（常任理事会・シンポジウム・研究発表）を会場に、標記大会が開催されました。

この催しは1992年に大正大学でスタートし、北海道から九州まで持ち回りで開催され、今回は島根県松江市で実施されました。本大会は、教育に携わる先生が日頃の研究・実践の成果を持ち寄り、仏教教育の今日的課題や役割などについて議論を交わしながら学びを深めることを目的としています。

今回は高山潤照先生（東京・寿福寺幼稚園園長）が参加され、会の概要を報告してくださいました。

因みに、次回「第25回学術大会」は愛知学院大学（名城公園キャンパス）を会場に平成28年12月3日（土）に開催の予定です。

研究発表・概要

開会式のあと、9時30分から研究発表が行われ、今回は5人の先生が発表されました。

1、「天台智顛の

四悉檀解釈について」

山口弘江先生（駒沢大学）

「天台教学の主たる教義は、実践論では「三観」、教判説である「四教」が知られているが、本発表では「四悉檀」を取り上げたい。「四悉檀」は三観や四

教を生み出す元として重視された概念であり、先学がその意義を論じてきた教義である」

冒頭、先生はこう述べられて中国の「大智度論」天台宗の「智顛」、同時代に名を馳せた地論宗の慧遠や三論宗の吉蔵らの「四悉檀」の解釈について触れられた。この「四悉檀」解釈に関連して考察する宗典ともいえる『妙法蓮華経玄義』と対比してゆくことで、智顛の化導者としての姿を見出し、話されたい。

2、「北原白秋と法華信仰」

長倉信祐先生

（日蓮正宗教学研鑽所）

北原家は福岡県柳川の浄土宗専念寺を菩提寺としたが、家長の長太郎は度重なる妻子との愛別離苦により黒住教を経て金光教に入信した。長倉先生は北原家の宗教遍歴から話を進められ、白秋は日蓮宗に結縁したが、妻子の入信は確認できていない。ただ、白秋の逝去後に北

原家を目黒妙心寺に信仰継承を任じたことが近年の資料精査で判明したと語り、北原家の縁者による名古屋での論法や『法華』や『国柱新聞』等の誌上対論の背景などをもとに再考を要したと話されました。

その他に、

3、「武道と日常生活としての修行」

（高平健司先生・筑波大学大学院）

4、「道徳教育における生命や自然、崇高なものとの関わり」

（小池孝範先生・秋田大学）

5、「農繁託児所と仏教保育」（森本利夫・関西保育福祉専門学校）

の先生方から順次発表があり、総括質疑がありました。

昼食後、「中村元博士と教育」のテーマでシンポジウムが行われ、基調講演では丸井浩先生（財・中村元東方研究所常務理事・東京大学大学院）による「世界平和への希求」。

報告①「中村元博士と児童教育」矢島道彦先生（日本仏教教育学会／駒沢大学）

報告②「慈しみの思想家・中村元博士と記念館教育事業」が行われました。

そして「会員総会」「記念写真撮影」を終えて、「由志園」に会場を移し懇親会。和やかな懇親風景が見られました。





成道会

(敬称略)

園長 〒158・0093 東京都世田谷区上野毛2-15-15 電話 03・33704188	園長 〒274・0814 千葉県船橋市新高根3-8-1 電話 047・4652336	園長 〒379・1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原985 電話 02778722108	園長 〒340・0032 埼玉県草加市遊馬町430 電話 048・9251741	園長 〒146・0084 東京都大田区南久が原2-30-5 電話 03・37560505	園長 〒156・0051 東京都世田谷区宮坂2-10-1 電話 03・34272251
--	---	---	---	---	--

園長 〒737・0022 広島県呉市清水2-1-26 電話 0823・255761	園長 〒216・0026 川崎市宮前区初山1-2-11 電話 044・9775671	園長 〒183・0014 東京都府中市是政3-6 電話 042・3617452	園長 〒179・0074 東京都練馬区春日町3-14-24 電話 03・39982162	園長 〒191・0034 東京都日野市落川943 電話 042・5911687	園長 〒144・0047 東京都大田区秋中1-12-7 電話 03・37395641	園長 〒106・0046 東京都元麻布1-6-21 電話 03344536710	園長 〒146・0093 東京都大田区矢口2-26-17 電話 03・37580074
--	---	--	---	--	---	---	--

園長 〒193・0944 東京都八王子市館町1629 電話 04266613046	園長 〒152・0003 東京都目黒区碑文谷1-22-22 電話 03・37166070	園長 〒183・0021 東京都府中市片町2-4-11 電話 042・3647651	園長 〒710・0055 岡山県倉敷市阿知3-20-7 電話 086・4250141	園長 〒134・0091 東京都江戸川区船堀6-9-30 電話 03・36890340	園長 〒652・0032 神戸市兵庫区荒田町3-17-1 電話 078・5110167	園長 〒566・0064 大阪府摂津市鳥飼中1-20-1 電話 072・6545093	園長 〒960・1101 福島市大森字南中道47-1 電話 0245450814
--	---	---	---	--	--	--	---

園長 〒174・8631 東京都板橋区前野町6-36-4 電話 03・39667637	園長 〒604・8493 京都市中京区西ノ京南町22 電話 075・8210055	園長 〒192・0055 東京都八王子市八木町8-11 電話 042・6223386	園長 〒165・0022 東京都中野区古田3-9-9 電話 03・33850014	園長 〒132・0024 東京都江戸川区一之江6-19-10 電話 03・36565636	園長 〒206・0021 東京都多摩市連光寺2-24-6 電話 042・3746040	園長 〒197・0802 東京都あきる野市草花3056 電話 042・5587811	園長 〒131・0033 東京都墨田区向島5-4-4 電話 03・36227771
--	--	---	--	--	--	---	--

園長 〒300・0812 茨城県土浦市下高津2-10-22 電話 029・8211645	園長 〒610・1112 京都市西京区大枝北福西町4-3 電話 075・3322808	園長 〒533・0023 大阪市東淀川区東淡路4-12-25 電話 06・6321027125	園長 〒232・0002 横浜市中区三春台19 電話 045・23110290	園長 〒615・8296 京都市西京区松室山添町6 電話 075・3812591	園長 〒380・0847 長野市若松町1028 電話 026・23445858	園長 〒080・2471 北海道帯広市西21条南3丁目22-2 電話 0155・3557122
---	--	--	--	---	--	--

お詫びと訂正
本紙9月号(No.617) 暑中見舞(協賛
広告)掲載の和歌山県「鷲森幼稚園」の
園長先生のお名前に誤りがありました。
正しくは、「中岡順忍」先生でした。茲
に謹んでお詫びし訂正いたします。



第11回理事会・第8回運営審議委員会

平成28年1月20日(木)

- ・受付 14時～14時30分
- ・議事 14時30分～16時
- ・議題
 - 平成27年度補正予算(案)
 - 平成28年度事業計画(案)
 - 平成28年度収支予算(案)
- ・会場 増上寺光摂殿

平成27年度第2回仏教保育研修会

- 受付 15時30分～16時 研修会 16時～17時30分
- 講師 柏女霊峰先生(淑徳大学総合福祉学部教授)
- テーマ 「子ども・子育て支援制度と保育」
- 参加費 無料

《新年懇親会》

- 受付 17時30分～18時
- 懇親会 18時～20時
- 会場 ザ・プリンスパークタワー東京
地下2階「ボールルームAB」

養成機関連絡協議会

- 平成28年2月22日(月)
- 会場 芝パークホテル別館2階「アイリス・アゼリア」
- 協議会 16時～17時30分
- テーマ 「仏教保育をいかに現代に生かすか」
- 懇親会 18時～20時
- ―養成・就職・現場 それぞれの立場で―

募 集 要 項

第8回 仏教保育精励賞	第14回 古屋賞	第19回 持田賞
<p>「仏教保育精励賞」は、保育の現場において仏教保育に功労のあった保育者を顕彰するもので、隔年ごとに開催する全国仏教保育大会・全体会(式典)で授与します。この賞は平成14年に設定し、これまで58名が受賞されています。来夏開催の「第34回全国仏教保育福島大会」においても「仏教保育精励賞」の対象となる保育者を募集しています。</p> <p>1. 対象 保育現場において仏教保育に功労のあった保育者</p> <p>2. 応募要領 ① 申請の際は日仏保事務局にご連絡下さい。申請用紙を送付いたします。申請用紙に必要事項を記入の上、申請料を添え、現金書留にて送付下さい。</p> <p>② 申請料 2万円</p> <p>③ 締切り 平成28年6月末日</p>	<p>1. 趣旨 元理事長・古屋道雄先生の、戦後ににおける日仏保再発足とその整備拡充に尽くされた業績を偲び、各地域支部並びに団体、個人の幼児保育に関する実践的な研究活動及び運営について功績が認められる者を顕彰し、もってわが国における仏教保育の振興、支部活動の活性化を図る。</p> <p>2. 対象 当協会加盟の支部または会員及び仏教保育を研究推進する団体。</p> <p>3. 応募要領 ① 推進活動を記録集文した原稿、実績資料を提出。資料に団体名(代表名または個人名)所在地、電話番号を添付する。</p> <p>② 締切り 平成28年5月末日</p>	<p>1. 趣旨 当協会の理論的指導者・故持田栄一東大教授の業績を偲び、仏教保育の理論及び実践に関する優れた研究を顕彰し、もって仏教保育の振興充実に資する。</p> <p>2. 対象 当協会加盟の幼稚園・保育所の教職員または仏教保育研究者。共同研究・個人研究。</p> <p>3. 内容 ① 将来を展望した幼児教育に関する研究 ② 生命尊重の保育に関する研究 ③ 保育制度対策に関する提言 ④ その他</p> <p>4. 応募要領 ① 4000字詰め原稿用紙10枚か15枚程度。原稿に団体名(または施設名)所在地、電話番号、代表者(または個人)氏名を記入した応募票を添付する。</p> <p>② 締切り 平成28年5月末日</p>
<p>送り先 公益社団法人 日本仏教保育協会 〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 TEL 03(3431)7475 FAX 03(3431)1519</p>		



事務局日誌

- 11/6 「ほとけの子」座談会
- 11/9 「仏カリ」 「仏教保育」編集会議
事務局会議
- 11/18 「ほとけの子」企画会議
- 11/25 「仏教保育カリキュラム」企画会議

梵鐘の音を聴きながら、一年を省みる夜に

紅白歌合戦の終章で奏でる「蛍の光」の歌声が静かに流れ去っていくと、聖なる鐘の音が北から南から響きわたってきます。NHK「ゆく年くる年」でお馴染みの除夜の音です。

ご存知のとおり、除夜の鐘の突く回数には108回。由来は108の煩惱を消除する、四苦八苦の苦しみを除く(4×9+8×9=108)、一年を表す12カ月と24節季に72候を合わせ一年の安寧を願う、といった諸説があります。数え方にも異説があるようですが、何れにせよ、煩惱の多いことから108で示したものと考えられています。

仏教では迷いの大きな要素として「三毒煩惱」を説きます。

【貪欲】 現状に満足できない欲の深い心。

【瞋恚(しんに)】 自分への考えを相容れない者に腹を立てる。

【愚癡(ぐち)】 頭では理解できても心が受け付けない。この三つです。

これらの煩惱は、誰もが多少は持っています。改めようと思っても、なかなかコントロール出来るものではありません。鐘の音は「梵天の声」。つまり、仏さまの清らかな声ということです。

「ゆく年を省み、迎える年に幸あれ」と仏さまが説法されているような除夜の鐘の響きを聴きながら、清らかな心で新年を迎えようではありませんか。

編集後記

■平成27年も残りわずかになりました。12月になると、その年の10大ニュースが話題になります。嬉しい出来事、悲しい事件もあります。許せない凶悪な事件、乳幼児の虐待事件なども後を絶ちません。人それぞれに悲喜交々の一年だったと思います。そして、来年こそはと心新たに歩き出します。年が変わると「初詣」に繰り出します。神社・仏閣は善男善女で賑わい、願い事を祈った後「おみくじ」売り場に立ち寄って一喜一憂する、そんな光景が日本の年始の光景のようです。■「おみくじ」の話題が出たところで、その蘊蓄(うんちく)を少々ご披露しましょう。「おみくじ」の起源は、江戸時代天台宗・天台僧正が広めた「元參大師御籤(がんさんだいしきん)」が始まりです。武士・町人が人生の岐路に立った時に神仏に答えをもらうものでした。神社のおみくじには和歌、お寺のおみくじには漢詩が書いてあり、不思議とその人の悩みにぴったりの「アドバイス」になっていたと言います。例えば、大凶でも「陰極まれれば陽に転ず」と書かれていて、落ち込まないように励ましが書かれています。■おみくじには九つのパターンがあります。「大吉・吉・中吉・小吉・半吉・末吉・末小吉・凶・大凶」。「おみくじ」の研究者によれば、実は「末吉」が一番良いのだそうです。近い将来運気上々との意が込められているとのこと。■「おみくじ」を120%楽しんでより良い一年にしましょう。(O・I)

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



仏教保育綱領

- 慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
- 仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
- 正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版